



館報 まつかわ

松川町公民館報
第744号
令和7年11月15日

町の川 ⑦ 矢太沢川支流 桑園中部

文化祭



10月24日(金)
〜
26日(日)
町民体育館

松川町文化祭実行委員会主催、上片桐地区公民館共催にて令和7年10月24日(金)から10月26日(日)まで3日間に行なわれる「第30回松川町文化祭」が町民体育館で開催されました。上片桐地区公民館との共催も3回目となり、上片桐地域からも文化祭に多くの方が参加されています。

24日から町内各クラブや教室、個人の出展者、小中学校、高等学校の児童生徒の力作がアリーナで展示され早速、大勢のギャラリイが訪れました。年々、若い方を中心にC/Gを利用したイラストが増え、新しい文化の芽生えが感じられます。

そして最終日26日には体力相談室にて松川中学校のフマペンマーケットが初めて行われ、中学生の呼びかけにより提供された様々なリサイクル品が販売されました。同日にはトレーニンングルームを舞台に恒例の演芸の部が開催され、13組の元気なダンスや演奏、優雅な踊り等が発表され、盛大な歓声を浴びています。また、同会場においては、「ハナブサハウス」が出店し、多くの方が利用していました。



力作ぞろいです

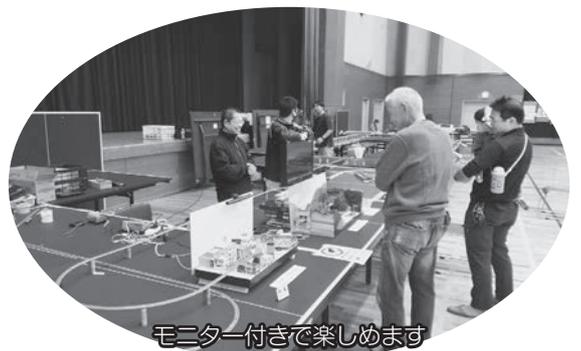
会期中、あいにくの天候が続き、見学者数が心配されましたが、受付で集計した延べ人数は1200人弱となり昨年度並みの結果となりました。入場者アンケートにおいて、「素晴らしい展示をありがとうございました」「作者の熱意が伝わってきた」「作者の意見が多数ありました」といった意見が寄せられました。また、「展示スペースに偏りがあり不公平」等の意見もありました。寄せられたご意見は、来年の文化祭に向けて検討し、一層の参加者増に取り組んでいきたいと思っております。毎回申し上げていることですが、松川町文化協会では地域の様々な文化芸術に触れる手作りの文化祭を毎年おこ



フマペンマーケット

フリーマーケットもありました

なっています。興味を持たれた町民の皆様、一緒に活動しませんか。年齢性別・ジャンル・レベルを問わず自己表現を主体的に実践されたい方を私たちは、いつでも歓迎いたします。文化祭3日間の会期中、会員・参加者各位や来場者の皆さまのおかげを持ちまして、大きな事故も無く、無事終了できました。心より感謝申し上げます。最後にりましたが、第30回松川町文化祭開催にあたり御支援・御協力をいただきました松川町及び松川町教育委員会・松川町公民館に重ねての感謝を申し上げ、引き続きの御支援をお願いし、今回の総括とさせていただきます。松川町文化祭実行委員会 副委員長 畑中 英樹



モニター付きで楽しめます

来場者アンケートから

・全部作った人の頑張りが出てきて、それを文化祭に出せばたくさんの方にその頑張りや伝わると思いました。

・毎年楽しみにしています。力作ぞろいでした。日頃の努力が大事だとしみじみ思いました。

・ふつとよらせていただきましたが、あらゆる年代の芸術活動の記録に何だか励まされました。これから年を重ねる中で自分も趣味を増やしたいなと思います。素敵な展示会をありがとうございました。



第30回

松川町



- ・力作ぞろいですね。個人的に水彩画を始めてみたくなりました。年々展示数が少なくなってきたので寂しい思いがあります。それでも見ていて刺激を受け何かを始めるきっかけ作りの場になるといいですね。
- ・町内には文化的な活動が多く、各グループ各人での作品がたくさんあることをこういう機会に感じます。秋



- ・もっとたくさんの子どものための絵、習字などがかざられてあると楽しみに来れます。



- ・たしました。松川町の誇りですね！
- ・一日を豊かな気持ちになりました。
- ・もっともつというんなものを見たかったです。
- ・近くに住む方がどなたかはわからないけれどあんな立派な絵や作品にとりくまれているかと思うと嬉しくなりました。
- ・ところどころにイスが置かれ、役員の方の配慮が感じられた
- ・第30回記念の開催、誠にありがとうございました。素晴らしい作品の数々に感銘



- ・開催時間が分かりづらかった。SNSなどでもっとお知らせすればいいのと思った
- ・ライトの関係か暗くて見づらいものもあったのが残念でした。
- ・作品を見てみると書くことがすきなんだなあと感じました。



- ・年々若い人の作品が増えていいと思います。
- ・プラレールさいこう
- ・展示の仕方が不公平感があるように感じた。場所をすくく飾っているところと狭く飾っているところと平等に均一にするべきと思う。
- ・女性の出品比率が高く、男性が少ない。
- ・いとと思うが、またこれか・・・と思ってしまった。ブックフェスタと日程が重なったのは残念。



- ・若い子たちの作品が増えていてよかったです。
- ・毎回同じ絵がある、すご
- ・れとてもよかったです。松川町の何か催しと一緒に開催されるともつと賑わうのかなと感じました。(素敵なのでもつたいたい！)

中学校総合学習 居心地の良いきれいなまち講座& マチまるごと美術館プロジェクト

@まっかわマイプロジェクト

地下道の中学校側に新しいアートが描かれました!

まっかわマイプロジェクトとは、ワクワクする問いから自分の「好きな事や興味事」をリアルな社会や地域で、地域の方々と実際にやってみよう!という探究的な学び及びそれに取り組むコミュニティです。

この中で乾真緒いぬいなおさんが「マチまるごと美術館プロジェクト」を始動しております。テーマは「歩いて楽しいマチ」。壁画に絵を描いたり、アートなマンホールを考えたり、色々なお花を植えたりと、マチ全体を美術館にすることで歩いて楽しいマチにしていくプロジェクトです。

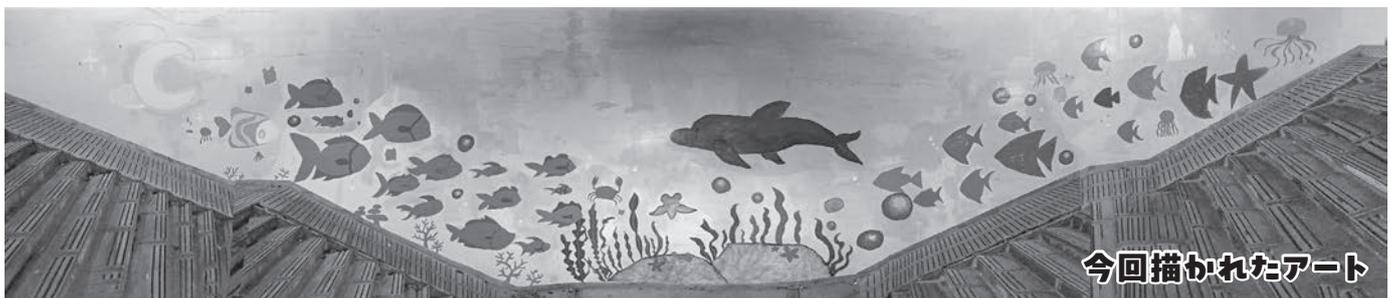
その中で、このプロジェクトの取組みを、中学校で実施されている地域課題を探究的に学習していく時間で一緒に展開できればというお話になり、中学校の総合的な学習の時間で「居心地の良いきれいなまち」講座が設けられました。そして今回は小学校前の地下



これまでのデザイン



40年前に作成した人たちからも話を聞きました



今回描かれたアート



ミナトヤの会長さんにもご協力いただきました

通路に描かれている古くなってしまった地下道アートをきれいにする活動が始まりました。

この活動をすすめていくにあたり、地下道のお掃除もしました。また、どのように塗ったらよいか分からなかったため、地域で活躍されているミナトヤの会長さんに教えていただきました。さらに、今まで描かれていた地下道アートへ当時携わっていた方々に、当時の経緯や想いを共有していただく時間を設け、当時携わった方々の想いを聴くこともできました。「自分たちが描き40年近く親しまれたアートには愛着があるが、今の学生が当時の想いを受け継いでくれて、地下道が再び華やかなものになることはすごく楽しみ」など、当時の想いを紡ぐこともできました。

「居心地の良いきれいなまち」、「マチまるごと美術館プロジェクト」にとって今回の活動が第一歩となります。これからもゴミ拾いをしたり、お花を植えたりと、多くの方が「歩いて楽しい・きれいなまち」を目指して、地域全体でこのプロジェクトを展開していければ素敵ですね。



中学生が考えたデザイン案

中学生それぞれがデザイン案を考え、投票でデザインを決定しました。

中学生インタビュー

Q：まずお名前を。
A：シミズタイチです。

Q：このコースを選んだ理由は？
A：（シミズ）地下道をアートするって、めっちゃ楽しそうだったからです。

Q：デザインは自分たちで。
A：（シミズ）はい。

Q：みんなそれぞれ作って投票？
A：（シミズ）そうです。それで僕は0票でした。

Q：塗り作業は大変でしたか？
A：（ホリキ）楽しかったけど、大変だった。あと寒かった。（カタギリ）笑

Q：元イラストはあんな感じ？
A：（カタギリ）あんな感じですが、ちょっと寂しかったから増やしました。

Q：どんなところが大変だった？
A：（ホリキ）高いところ、上のほうのところが届かなさ過ぎて。脚立でやりました。背伸びして。

Q：出来栄はどうですか？
A：（カタギリ）めっちゃいいです。思った通りにできました。

Q：元のイラストはあんな感じ？
A：（カタギリ）あんな感じですが、ちょっと寂しかったから増やしました。

Q：塗り作業は楽しかった？
A：（シミズ）めっちゃ楽しかったです。（サワイ）楽しかったです。（フクザワ）楽しかったです。

Q：出来栄は？
A：（シミズ）僕の腕からすれば、もったいい作品書けたかなと思っただけです。

Q：今後のいろんな人に見てもらおうか？
A：（サワイ）みんな地下道を通して、明るい気持ちになっただけです。



Q：今後のいろんな人に見てもらおうか？
A：（サワイ）みんな地下道を通して、明るい気持ちになっただけです。



「夏休みの思い出」

3年 大澤 奏吾

3年 北島 叶都

8月19日に、クレモンちゃん
の映画をみに、おか谷
に行きました。いっしょに
行った人は、お父さんと妹で
3人で行きました。おか谷の
映画館は、初めてだからと
モドキドキしました。クレモ
ンちゃん映画は、とても
面白かったです。次は、お
母さんといっしょに4人行
きたいです。

3年 菅沼 想

夏休みに高校生のお兄ちゃ
んが帰ってきました。今日は
お父さんとお母さんとお兄
ちゃんとおぼくの4人で、大
学のお兄ちゃんの所へ遊びに
行きました。場所は、南知多
です。お兄ちゃんがぐるり森
やゴーカートのアルバイトを
していました。

ほかにも、イルカショーや
アシカショーをみたり、大き
いセイウチに会いました。ウ
ミガメに生魚をあげました。
夜には、5人でごはんを食
べました。楽しかったです。

「夏休みの思い出」

3年 北島 叶都

ほくは8月8日に名古屋の
レコランドに行ってきました。
レコランドには、お店の中
レコプロックのおもちゃが
たくさんありました。ほかにも
アイスがありました。ほくは
パイナップル味を食べました
とてもおいしかったです。
そのあとに、てんぼう台に
のりしました。少しずつ高
くなって、一番高いところ
に行くと、レコランドの全部
が見えました。

3年 岡本ゆり菜

8月17日に、山梨に行きま
した。山梨で、ほうとうのお
店に行きました。トイレに
行って出ようとしたら、あけ
られなくなって、落ちこんで
いたらおのの人が店員さんをよ
んでくれました。

次に、ほう石(きれいなビー
ズ)をさがす場所に行きまし
た。きれいなほう石がいっぱ
いとれました。そのあと、と
たほう石でキーホルダーと
ドームを作りました。そのあ
と、ふじ山の見えるキャンプ
場に行きました。また一つ思
い出ができました。

「粘土で縄文土器を つくろう」

第4回まつかわ講座

資料館では、第4回まつかわ講座として10月4日(土)に『粘土で縄文土器を作ろう』という講座を行いました。町内より親子6組14名の方が参加して縄文土器づくりに挑戦しました。みなさんは、縄文土器というどんな土器を想像するのでしょうか。有名な火焔土器、底が尖った尖頭土器など想像するかもしれません。一般的に茶褐色でもろく、厚い土器ですが、後世の弥生土器などに比べて装飾が多く、形も多彩でも個性的なのが縄文土器です。今から一万年も前にこのような土器が作られていたのはとても興味深いことです。そんな縄文土器作りに今回挑戦しました。最初に縄文時代の生活の様子や暮らし、道具などについて資料館の展示物を見ながら説明しました。そして町内で発掘された実際の縄文土器を見て参加者の方々も『どんな物を作ろうか』というイメージを持たせていただきました。

製作にはテラコッタ粘土という焼かなくても固まる粘土を使用しました。土器の作り方の手順は以下のとおりです。底を作り、粘土紐を作り、積み重

- ①底をつくる どれぐらいの大きさにするか、考えて作ろう
- ②粘土でひもをつくる 6本~7本くらい
- ③ひもを積んで巻き上げていく どんな形にする?
- ④水をつけながら形をととのえる 水をつけすぎないように注意!
- ⑤いろいろな道具で模様をつける あなをあげたり かざりをつけたり..
- ⑥2~3日 かわかして完成!



ねていくの
に中々苦労
されている
方もいまし
た。しかし、
時間がたつ
につれ誰も
が無我夢中
になり熱中して取り組んで
いました。大まかな形ができた後
の模様付けにもみなさんのこ
だわりがあり様々な土器が仕
上がっていきました。穴のよう
な模様を付けたり、細い粘土
紐を付けて唐草文様を付けた
り、平和を願って笑顔の模様を
付けたり、取っ手や淵を工夫し
たり、中には現代的なリボンを
付けてみたり、それぞれとても
工夫し個性的な作品ができあ
がりました。また、余った粘土
でキティちゃんや猪などの動
物を作ったりして自由な発想
で楽しんでいました。みなさん
の感想に「夢中になりすぎて時
間が足らなかつた」「昔の人の
工夫を感じながら作れた」「楽
しみながら松川の歴史を学べ
た」とても楽しかった」などが
多く聞かれ、
とても良い
体験講座に
なったと思
います。

(松川町資料館 中島裕治)



まだまだ 挑戦は 続きます！



て手掛けていたのですが、リーマンショックなどで会社を取り巻く環境が大きく変わった時、思いきって退職。その時は、一人で切り開いていこう！という希望に満ちたものは無く、背水の陣でいく、との気持ちを感じられたそう。専門的な勉強をしたわけではなく、チラシ1枚作るのにもデザイン



北林 南さん(郷原)
グラフィックデザイナー

「グラフィックデザイナー」と書くだけで、なんかカッコイイ！と感じるお仕事。今回お話を伺ったのは北林南さん。デザインの事に少し興味があった頃に勤めていた会社で「北林さんは絵を描いたり上手だからグラフィックデザイナーの勉強してみたら」と勧められたのが始まりだそう。夢のような信じられない展開つてあるんですね。

最初は会社関係でポスターとかパンフレットを仕事として

の仕事が大好きなんだ、と再確認されたそうです。今のお仕事はデザインがメインですが、冊子を作られる時は取材をする事も。その時はお客さんの了解を得て可愛い助手を同伴されるとか。小学2年のお嬢さん。昨年は遠山郷の鹿の解体に立ち合って、自分で考え行動されたようで、地元の猟師さんからも、小さなうちから命の循環を見てもらうのはすごく大事だからと言っていただいたそうです。

最初はアルバイトの掛け持ちをしながらだったデザインの仕事も、行政とか企業関係が増えてきて町民の皆さんの目に留まる機会も増えてきたことと思います。お話しを伺った時に教えていただいたのは役場関係の名刺。何枚か手持ちがあつて、なんとなく身近に感じて嬉しくなりました。

これから先、笑顔で挑戦を続ける南さんに大きなエールを送ります。

スポーツ 松川剣道クラブ 大会結果

9月14日 飯伊地区夏季剣道大会

団体戦 (小学生低学年の部)	3位入賞	先鋒	佐々木 快成	
中堅	大藏 海斗	大将	山口 栞奨	
優勝	松澤 和々花	先鋒	横田 蒼輔	
(中学生女子の部)	次鋒	山下 詩月	中堅	田中 水萌
副将	島田 陽晴	大将	宮澤 結望	
優勝	宮澤 結望	先鋒	松澤 琴美	
(中学生男子の部)	準優勝	山口 栞奨	準優勝	山下 詩月
優勝	松澤 和々花	準優勝	松澤 琴美	
(小学生3・4年女子の部)	準優勝	松澤 琴美	準優勝	松澤 琴美
(小学生5・6年女子の部)	準優勝	松澤 琴美	準優勝	松澤 琴美
(中学生女子の部)	準優勝	松澤 琴美	準優勝	松澤 琴美
優勝	松澤 琴美	準優勝	松澤 琴美	



9月28日 南信少年柔剣道大会

団体戦 (中学生女子の部)	優勝	松澤 琴美	
松川A	先鋒	宮澤 結望	
中堅	松澤 琴美	大将	堀木 一華
準優勝	松川B	先鋒	桜井 ひまり
中堅	田中 心麦	大将	堀木 六花
個人戦 (中学生女子の部)	優勝	松澤 琴美	



声

上片桐

さつまいも

収穫





前日に支援者による
つる切り



今年はずんずん サイズの芋だ！

10月5日(日曜日)に雨が心配される中さつまいもほりを行いました。子どもたちに土に触れ収穫の体験の場を残したいとさつまいも栽培は上片桐子ども会育成会・北小PTA・地域の支援者など地域ぐるみで始めて3年目、今年は今までにない良いサイズの芋の収穫となりました。前日までに北小学年の畝はすでに芋ほりは済んでおりこの日は一般向けの畝に50名ほどの親子で芋ほりを始めました。ほり始めたら「おもしろい」「たくさんあるよ」「今年もいいサイズだね!」「6個もついている」「もつと掘りたい」などと話はずみ夢中で掘っていました。1時間ほどで芋ほりは終わり肥料袋1杯、レジ袋一杯など持ち帰りは自由、焼き芋用にコンテナ5杯分を収穫し実りあるひと時でした。保育園は延期になった運動会と重なってしまったので、保育園用に1畝残し後からほりにきてもらうことにしました。みなさんでおいしく食べてもらいたいな。

2025年

松川町駅伝大会に出場させていただきます。昨年引き続きいつもの仲良しメンバーで参加。なんとか全員でタスキを繋いで無事完走することができました。日頃の運動不足解消のためにしっかり練習するつもりでしたが、結局あまり練習もせずに当日を迎えてしまいました。私は5区を走りましたが、古町から小学校までの登りはめちゃめちゃしんどかったです。

みんなでがんばったあとは慰労も全力!! しっかり飲んでしっかり食べてとても楽しかったです! どっちかと言うとこっちがメインですかね。笑
駅伝大会はいろんな友達と会える機会でもあるので、毎年楽しみにしています。今年も記念大会ということで、ゲストが来たり豚汁が食べれたり町外からの参加もあり、今までとはまた違った交流もできてとても盛り上がったと思います。運営や応援をいただいた方々ほんとにありがとうございます。(小笠原 美保子)

公民館報
「まつかわ」
第744号
令和7年11月15日
発行所 松川町公民館
責任者 山崎 隆
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: c.kouminkan@town.matsukawa.lg.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷株式会社